

Greeting



SAKAKIKAI
2021

謹
賀
新
年

年末に
数量限定
予約販売
ひと揃い
5,000円～
(税込)



あけましておめでとうございます。

今年も笑顔絶やさず「しあわせ」を創造する年とします。どうぞよろしくお願いいたします。

Feature



くらす

2021年年初特集

「くらす」 みらいファーム 所長 中村光輝

現在、障害福祉の世界では、「8050問題」が叫ばれています。これは、80歳(高齢な)の親が、50歳(障害者)の子供を支援(介護)する「老障支援(介護)」とも言われます。社会福祉法人さかき会が設立され、最初の事業所みらいコンパニーが稼働して20年目。支援学校を卒業して利用を始めた方々が、18歳で卒業したとして現在38歳。もう少して40歳を迎えます。今のさかき会の平均値は、「7040問題」です。これからの10年、「くらす」を意識した事業展開、仕組みを創造します。

平均値は、「7040問題」ですが、足音をしっかり感じ取りました。

23年のお付き合いとなるYさんのお母さんが、先日亡くなった。母子の二人暮らし。本人に「これからどこに住む?」と「ここに一人て住む」と答えた。食事をヘルパーさん。日中はみらいファーム。緊急時には地域生活支援拠点対応。加えて、

市の基幹相談支援センターそして相談支援事業所で支えることに。本人の生活をセブイレブンのレシートや立ち寄り先よりアセスメントし、1週間の彼の行動予定表を作成。この時に「この方のお母さんが亡くなりまして・・・。」と話をする。「えっ」と一様の反応。「今後も一人で今の団地に暮らしますのでお世話になります。」と伝えると本人に「頑張るだよ」と励ましの言葉。今の団地に住み始めて約20年、母子で築いた財産がそこにはあった。

ある日、ある業者さんに作業をお願いした。その作業にやってきた方がごく普通に「あの子は、施設に行った?」と質問。「いえ、息子さんは、この団地で一人で暮らしていきますので今後よろしくお願ひします。」と挨拶をした。「障害者は、一人で暮らせっこない。」こんな想いがまだ多くの人の心の中にあるようだ。「地域共生社会」の実現に向けて、社会は進んでいるはずなのに。

出来ないことはたくさんあるかもしれないが、出来ないことを助けてくれれば一人で暮らせるのに。こんな当たり前のことを少しでも多くの人に知ってもらいたい。出来ないことは誰にだってあるはずだ。



くらす

Vol. 44

2021年年初特集

くらす

「いいあんばい」 中央市・昭和町障がい者相談支援センター 相談員 由井 美希依



昨年の4月1日に入職し、中央市・昭和町障がい者相談支援センターの相談員として配属された由井美希依(ゆいみきえ)です。字面は女性を連想させてしまいますが、その期待を確実に裏切る41歳の男性です。さかき会との御縁は卒業論文の調査にご協力を頂いたことをきっかけに、当時のレスパイトサービスのスタッフや千葉県に販売品の買い付けを兼ねた一泊旅行にご一緒させて頂いたことがあります。

あれから19年、紆余曲折を経て現在は甲府市の小さなアパートに一人住まいの男やもめです。相談員として地域で暮らし当事者とご家族、支援者の方々日々さまざまな生活に向き合うことを通して、自分自身も含めて「暮らし」とは、ということか考えます。私の場合の「一人暮らし」は、大多数の子育て最中の同年代に比べれば「自由」では確かにあります。しかし常に「孤独」がついて回ります。反対に家族

のいる人からすれば、「家族の助け合い」がある代わりに「行動や活動の制限」があります。サービスなどの力を借りようとするれば負担がでます。権利には責任、安全には不自由さ、安心にはマンネリのように生活を築く要素には必ず二つ以上の側面があると感じています。

一長一短のどちらかに偏るのではなく、人それぞれの「いいあんばい」を見つけるのが「暮らし」ことの大切さであり難しさでもあるようです。「いいあんばい」は年齢や健康、収入や環境、突きつめればその日の天気や気分によっても変化する不定形な物差しのようなのです。それでもやはり「生きていて良かった」や「いろいろあっても平均すると楽しくてしあわせ」と心底から思えるようにすることが、「暮らし」ことの大切な目標だとも感じます。人それぞれの「いいあんばい」を見つけれよう、相談員としても日々精進していきます。

2021年年初特集

くらす

「地域生活」 ぼけっとはうす 相談支援専門員 中村 由佳里



昨年の10月に入職しました中村由佳里です。どうぞよろしくお願ひいたします。私は、相談支援専門員として計画相談に従事しています。計画相談は、障害児者の希望に基づいて、地域での生活に必要な様々なサービスの利用計画(サービス等利用計画)を作成します。障害福祉サービスを利用する全ての方が、計画相談を利用して地域で暮らしています。

さて、「地域」と聞いて何をイメージしますか?地域生活や地域共生社会など、地域という言葉は様々な場面で登場しますが、実のところ、その定義は曖昧なまま使われていると感じています。私は、「地域とは人であり、人と人との関係性が育まれた共同体」と考えます。私たちは、人との関係性の中に身を置き、他者の力を借りながら暮らしています。逆に言えば、自分自身も誰かの暮らしに関わっています。しかし、障害児

者においては、障害とついでに障害福祉サービス従事者との関係性だけに限定されやすいのが現状です。私は、サービス等利用計画の「等」の部分が、地域生活を実現する大事な鍵と感じています。中村光輝所長の寄稿で登場する「頑張るだよ」とYさんに声をかけた方は、まさに「等」であり、Yさんの暮らしに必要な障害福祉サービスではないサポートです。私は単に障害児者と障害福祉サービスをつなぐだけでなく、希望する暮らしに必要な人との出会いと、その人との関係性を育てていける支援を目指していきたいと思っています。

